

平成31年度京都鴨沂教養講座のご案内

第50回教養講座

日時：平成31年5月25日（土）12時～13時

会場：御所西京都平安ホテル 嵯峨の間

「第二の緑の革命—作物の光合成能の向上をめざして」

講師： 泉井 桂 （京都大学名誉教授 元近畿大学教授）

世界人口の急激な増加によって、今世紀半ばには深刻な食料不足になると予想されている。約60%の穀類を輸入に頼る我が国にとってもこれは他人事ではない。何か“飛躍的に”穀類の生産性を高める方法はないものかと探された結果、植物の光合成能力を高めようという夢のようなアイデアが浮上してきた。イネやコムギなど大部分の植物（C₃植物）は、二酸化炭素（炭酸ガス）から炭水化物をつくる反応経路（カルビン・ベンソン回路）によって光合成をおこなう。これに対してトウモロコシやサトウキビなどC₄植物とよばれる一部の植物はC₄回路という反応回路を余分にもち、“自動車のターボチャージャー”のように二酸化炭素を効率よくキャッチしてこれを上記の反応経路に送り込むことができ、C₃植物より1.5～2倍も生産性が高い。このことから、C₄回路を構成する酵素などの遺伝子をイネやコムギに導入して一挙に、生産性を高めることを目指す“C₄化”研究が世界各地で行われている。これができれば「第二の緑の革命」になると期待される。本では、「緑の革命」のいわれを紹介したのち、光合成概略とC₄回路の働きを説明し、研究の進行状況と展望について紹介したい。

第51回教養講座

日時：平成31年10月 日（土）13時30分～15時

会場：鴨沂会館新館2階

「埴輪と古墳時代の人々—古代国家成立前夜の社会像」

講師：古谷 毅 （京都国立博物館主任研究員）

弥生時代に続く3世紀中頃から7世紀頃までを古墳時代と呼んでいます。この時代は前方後円墳を中心とした古墳で東北から九州地方まで共通の基準が創られ、社会の仕組みが墓造りに表れた時代です。一方、埴輪は古墳が現れた当初から樹[列]てられた墳丘を飾る焼き物で、古墳の拡大と共に岩手県から鹿児島県まで拡がりました。

ところが、6世紀末頃には突然埴輪の生産が終わり、ほどなく全国的に前方後円墳の築造も中止されます。これは、有力者の社会的立場の確認が古墳造りから冠位などの新しい方式へ転換し、7世紀末頃に成立する古代律令国家成立へ向けた胎動が始まったことを示しています。埴輪は古墳時代の人々や当時の儀礼の様子を知るために大変貴重な資料です。服装や持ち物な

どには当時の社会における立場の違いが表され、さまざまな儀式における役割の分担を示していると考えられます。今回は埴輪を通して、日本古代国家成立以前の古墳時代の人々と社会の姿をお話します

参加費無料

お問い合わせ 公益社団法人京都鴨沂会

〒602-0856 京都市上京区荒神口通寺町東入荒神町105番地

電話 075-231-1001

E-mail ohki-kai@w3b.so-net.ne.jp